

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

(No.1)

4月に3年生を対象として行われた「全国学力・学習状況調査」の結果と、それらを踏まえて本校で分析した結果をもとにまとめた課題と改善の方向性についてお知らせいたします。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

中学校 国語

【区分及び領域】

- ☐ 言葉の特徴や使い方に関する事項
 - ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- ☐ 「話すこと・聞くこと」
 - ・全国平均を上回っている。
- ☐ 「書くこと」
 - ・全国平均を上回っている。
- ☐ 「読むこと」
 - ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

【評価の観点】

- ☐ 知識・技能
 - ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- ☐ 思考・判断・表現
 - ・全国平均を上回っている。

- 設問によっては、全国平均を下回る問題があり、語彙力の不足は課題である。

- 表現の工夫という観点で、語彙力をつけることと連動させて取り組ませること。

- 用途に応じた表現力を身に着けること。

- 物語で登場人物の心情を適切に読み取ること。

- 国語でのあらゆる単元のみならず、教科を横断し様々な場面で語彙力をつける取組を行う。

- 語彙量を増やすとともに、ことわざ、慣用句、故事成語、四字熟語、和語、漢語、外来語を理解し効果的に使用する指導の充実。

- 文学的な文章に関する表現技法を理解し、効果的に使用する指導の充実。

中学校 数学

【区分及び領域】

- ☐ 数と式
 - ・全国平均を上回っている。
- ☐ 図形
 - ・全国平均を上回っている。
- ☐ 関数
 - ・全国平均を上回っている。
- ☐ データの活用
 - ・全国平均を上回っている。

【評価の観点】

- ☐ 知識・技能
 - ・全国平均を上回っている。
- ☐ 思考・判断・表現
 - ・全国平均を上回っている。

- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明すること。

- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。

- 「数と式」及び「図形」の領域において、特徴を的確に捉え、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるような指導の充実。

本校の概要 ※()はやや思う以上の割合

今回の調査における課題
改善の方向
中学校理科
【区分及び領域】

- ☐ 粒子
・全校平均を上回っている。
- ☐ エネルギー
・全国平均とほぼ同程度。
- ☐ 地球
・全国平均を上回っている。
- ☐ 生命
・全国平均を上回っている。

【評価の観点】

- ☐ 知識・技能
・全国平均を上回っている。
- ☐ 思考・判断・表現
・全国平均を上回っている。

- エネルギー単元で、回路全体の抵抗を求めること。

- 課題に対し、主体的に学ぶことができるよう、単元のイントロダクションにおいて生徒の日常生活と関連付けたり、生徒の概念を揺さぶったりするような指導の工夫改善。

- 課題解決のために必要な計算力を、数学科などとの教科横断的な学習を通して、粘り強い姿勢で習得させるような指導の充実。

中学校
生徒質問紙①
人間尊重の教育・豊かな心の育成

- ☐ 「自分には、よいところがある(86.3%)」「役に立つ人間になりたい(97.6%)」「いじめは、どんな理由があってもいけない(97.6%)」では、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- ☐ 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる(88.8%)」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる(96.3%)」では全国平均を上回っている。
- ☐ 「自分と違う意見について考えるのは楽しい(80.1%)」では、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- ☐ 「人が困っているときは、進んで助けている(90.0%)」では、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 相互承認の感度をより高めていけるよう、自治的な活動だけではなく、課題探究的な学習における協働探究の充実を図っていくこと。

- 道徳の授業や行事等の取組の中で、「心をつなぐコミュニケーション力」の育成により力を入れる。

- 異学年混合の学びの場をより創造する。

学ぶ力の育成

- 「1,2 年の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた(85.1)％」では、全国平均を上回っている。
 - 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)や、学校が休みの日(土曜日や日曜日など)に、1時間以上学習する生徒(67.6)％」の割合は、全国平均を上回っている。
 - 「1,2 年の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた(67.5)％」では、全国平均を上回っている。
 - 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる(71.3)％」では、全国平均を下回っている。
- 『一人一台端末の活用』
- 「ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる(93.8)％」では全国平均を上回っている。
 - 「ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフなどを使ってまとめる)ことができる(71.3)％」では、全国平均を上回っている。

健やかな体の育成

- 「朝食を毎日食べている(87.5)％」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている(76.3)％」では、全国平均を下回っている。

○平日・休日における学習習慣を身に付けること。自らの学びを見直し、次につなげていくこと。

○授業で学んだことをつなげて駆動できる探究活動の充実を図っていくこと。

○ICT機器(クロームブック)を自分の考えを発表する機会でも効果的に活用すること(特に情報の整理に関して)。

○「食事・運動・睡眠」の健康三原則を理解し、自ら健康の保持増進を図ること。

○各授業のふり返りにおいて、家庭での学習内容や方法、また次の学習等へのつながりを考えさせることを重視し、「粘り強く挑む力」の育成により力を入れる。

○授業で学んだことを言語化し、アウトプットする機会を増やす(協働探究含む)。

○パートナー校と連携を図り、ICT機器の活用について、系統的に学べるようにする。

○学校全体として、子ども自らが体力づくり、健康づくりに向かえる健康教育を推進する。ログブックなどで、自己の生活を振り返る機会を設定する。

「学校に行くのは楽しい」と思っている生徒が全国平均を上回っており、本校の「みかほっ子を未来と社会につなぐ教育課程」のもと、充実した学校生活を送っていることがうかがえます。また、各授業等における一人一台端末の活用を進めてきたことで、主体的・対話的な深い学びの実現に一定の成果が見られてきました。

しかし、「将来の夢や目標を持っている(61.3)％」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う(72.6)％」生徒が全国平均を下回っており、卒業後の自らの姿をイメージできていないことも明らかになりました。

今後も「人間尊重の教育」を基盤とし、それを支える地域・家庭や、みかほっ子応援団と連携を密にし、「粘り強く挑む力」「心をつなぐコミュニケーション力」を育ててまいります。